

冬期講習中に、授業中一度「うなるほど」と「理解」した内容を正確に「定着」するための「三大練習」(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)の方法を身につけさせるために、
「授業中に練習時間を設ける」ことをお願い

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

冬期講習には、在塾生 6000 余名に加えて 1000 名の新たな塾生が開倫塾で学んでおります。合計して 7000 余名の塾生にどのようにして学力を身につけさせ、自分の行きたい学校つまり「一流校」への合格を果たしたらよいのか。

(1)学力の高い人は読書による深い思慮能力と新聞による批判的思考能力が身につけている人が多いので、読書と新聞を読む習慣をこの冬期講習中に身につけさせることが第一。

(2)学力の高い人は「Learning To Learn ラーニング・トゥ・ラーン」(学び方を学ぶ能力・スキル)が身につけている人が多いので、学び方(勉強の仕方)を身につけさせることが第二。

(3)開倫塾の「学習の 3 段階理論」を冬休み中に徹底的に毎日のように解説してよく「理解」させ、音読練習、書き取り練習、計算・問題練習の「定着のための三大練習」が自分の力で自由にできるまで、授業中にその練習を実際に行うことが第三。

*そこで今日は、どのようにして授業中に「定着のための三大練習」を行うかを皆様に御説明いたします。やるのは簡単ですので、まだやっていない講師は全員、今日の冬期講習会の授業からでも実際にやってみてください。

2. 授業計画(Lesson Plan レッスン・プラン)の中に、「定着のための三大練習」の方法を身につけさせるための時間を予め設けること。

(1)Lesson Plan の中に「定着のための三大練習」の方法を身につけさせるための時間を予め設けなくて、7000 余名の塾生全員にこのスキルを身につけさせることはできない。7000 余名の学力を向上させ、塾生全員に自分の行きたい学校つまり一人ひとりの「一流校」に合格させることはできない。私はこう確信いたします。

(2)どのように説明の上手(うま)い講師から授業を受けて「うなるほど」と「理解」しても、塾生は何時間か後には、何日か後にはその多くを忘れ去っています。「理解」したことを覚えていられるのはごく短い時間のみで、長い時間忘れずにいるのは至難の業といえます。そこで、どうしたら「短期記憶」を「長期記憶」とすることができるのか、「記憶の痕跡」を残すことができるのか、学習者である塾生の「学力向上」と「一流校合格」の鍵となります。

(3)開倫塾では「学習の3段階理論」の実行を提唱、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を「三大練習」によって「定着」させることを推進しています。

(4)授業の3分の1または4分の1の時間を「定着のための三大練習」を身につけさせるための時間として予め毎日の「レッスンプラン」に組み込むことを私はお願いしたいと思います。

(5) (ア)例えば英語でしたら、その日に教えるべきことを要領よく、またわかりやすくコンパクトにまとめ、授業時間の3分の2から4分の3の時間を用いて教える。教え終わったら、「これから、定着のための三大練習の時間です。」と宣言。

(イ)「まずは音読練習。今日やったすべての英文を何回もゆっくり声を出して読んでみましょう。読み方がわからない人は先生がまわっていきますから質問して下さいね。それでは音読練習始め。」と言って、パンと手をたたき合図をすること。

(ウ)「一度『うんなるほど』と『理解』した内容を何も見ないで正確にスラスラ言えるようになることがこの音読練習の最終目的です。がんばって今日勉強した文章を全部何も見ないで言えるまでにしましょうね。」そう言って、塾生を励ますこと。

(エ)「何も見ないで言えるようになった人は手を挙げて下さい。先生の前で何も見ないでスラスラ言えたら合格ですよ。」そう言って、暗誦(あんしょう)できた人は先生の前で言わせて下さい。できたら「合格」と言って、評価してあげて下さい。

(ア)「次に書き取り練習をします。スラスラ読める、言えるようになった人は内容を何も見ないでノートに正確に書いてみましょう。では、書き取り練習始め。」こう言って手をパンとたたき、書き取り練習をさせて下さい。

(イ)「書き終わった人は赤のボールペンを出し、書き誤った単語や語句を訂正して下さい。訂正し終わったら、正確に書けるようになるまで何回も何十回もノートに書き取り練習をすること。」

(ウ)「書き取り練習が終わったと考える人は、もう一度何も見ないで今日勉強した内容(英文)をノートに書いてみましょうね。間違ったものは、もう一回この場で書き取り練習すること。」

(ア)問題練習も、もう一度やり直すこと。問題を見た瞬間に正解がパッと正確に口をついて言えて正確に書けるようになるまで、問題文と正解の文や単語の音読練習、書き取り練習に励むこと。

(イ)設問の中で正解でない文章や単語・語句についても音読練習と書き取り練習に励むこと。

(ウ)解答の解説も一度「うんなるほど」と「理解」したあとにすべて音読練習、書き取り練習を怠らないこと。

3. おわりに - 私の好きなことば -

(1)「練習は不可能を可能にする」(慶應義塾塾長 小泉信三先生のことば)

(2)「練習で泣いて試合で笑え」

(私の足利市立山辺中学校柔道部時代の監督 椎名弘先生のことば)

(3)「ブルドック魂(たましい) - 食いついたら離すな - 」

(私の足利市立山辺中学校時代の中2・3のクラス担任 岡田忠治先生のことば)

(4)「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組むこと)

(私の足利高校時代のマラソン大会の合言葉)

(5)「一生勉強 一生青春」(足利市に在住した書家 相田みつを先生のことば)

(6)「教育ある人とは一生勉強し続ける人」(経営学の大家 ドラッカー先生のことば)

(7)「いつまでも若々しく生きる」(日本にヨガを広めた中村天風先生のことば)

(8)「教育とは愛と執念」(正岡子規先生のことば)

感謝